



# 令和7年度 福島県立視覚支援学校 学校経営・運営ビジョン

本校は今年で創立127年目を迎える歴史と伝統ある学校です。「清く、正しく、明るく」の校訓を継承し、子ども一人一人の教育的ニーズに対する共通理解を深めるとともに、人と人とのつながりのなかで、確かな学力と豊かな心を育み、夢に向かって、しなやかに、たくましく生きぬく子どもの育成に努めています。

## 校訓

清く 正しく 明るく

## 教育目標

視覚障がいにより生じた困難を克服し、社会の変化に主体的に対応できる確かな学力を身に付け、社会の一員として、共に尊重し合いながら協働して生きていく豊かな心と健やかな体をもつ、調和のとれた人間を育成する。

## 学校像

- ・みんなが笑顔で、楽しく過ごせる学校
- ・将来に希望をもち、主体的に学べる学校
- ・地域や保護者から、信頼され、期待される学校

## 子ども像

- ・自ら学び・考え・行動する人間
- ・お互いを尊重し、思いやることのできる人間
- ・健康でたくましく明るい人間

## 教師像

- ・子どもの良さや個性を生かし、伸ばせる教師
- ・研修等により、指導力と専門性の向上に努める教師
- ・高い倫理観と使命感をもち、信頼される教師

## < 令和7年度の重点目標 >

- (1)各教科で明らかになった「深い学びの姿」を、幼児児童生徒が新たな課題の解決においても発揮できるように、教科等横断的な視点で学習の充実に向けた工夫・改善を行う。
- (2)幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに基づく教育活動の充実のために地域や家庭、医療や福祉等との連携のあり方を工夫し、自己の障がいや心身の状態に対する理解や人とかかわりを深めることで、社会に対応できるしなやかな心と体をもつ幼児児童生徒の育成を目指す。

## 深い学び

○「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、学びの連続性や各教科等の関連性を重視して授業の工夫・改善に努め、確かな知識・技能を習得させ、新たな状況にも柔軟に対応できる力を育成します。

- 1 一人一人の視覚障がい等の状態や特性に配慮した教材の工夫や支援機器を活用した授業実践に努めます。
- 2 指導形態を工夫して、学び合いの機会を創出し、基礎基本の定着を図るとともに、実際の社会で生き生きと生活できる力の育成に努めます。
- 3 早期からのキャリア教育を充実させ、自立して生活する力や働く力を伸ばし、進路実現に必要な確かな学力の育成に努めます。

## 豊かな人間性と社会性

○地域の学校や団体等との交流及び共同学習を推進し、社会の一員としての意識向上を図るとともに、だれもが自分らしく生きることのできる社会の醸成のための理解啓発を行います。

- 1 触れる・聞く等の体験活動や支援機器の活用を通し、満足感や成就感を高めながら豊かな人間性を育みます。
- 2 地域や近隣の学校との交流および共同学習やボランティア活動等を通して、学び合う教育活動と社会の一員としての自覚を高める活動を推進します。
- 3 地域支援センターの役割の理解啓発に努めるとともに、教育相談を通して、視覚に障がいのある乳幼児児童生徒、成人を支援し、自立と社会参加を促します。また、乳幼児児童生徒の保護者、成人の家族及び担当教員、各関係機関職員への支援に努めます。

## 心と体を守る力

○発達段階や障がいの状態等に応じ、自分の障がいに向き合いながら健康で安全な生活を営む態度を育むとともに、主体的に生活できる力を育成します。

- 1 幼児児童生徒が自らの障がいや健康に関心をもち、主体的で適切な健康管理ができるよう、食育や健康教育を推進します。
- 2 将来にわたって健康な生活を営むことができるよう、家庭や医療・福祉・労働等の関係機関との連携を進めながら、幼児児童生徒の障がいの状態等に応じた適切な指導及び必要な支援を行います。
- 3 寄宿舎において、生き生きと自立した生活ができる力と社会性の育成のために、家庭と連携しながら視覚障がいに対応したきめ細かな生活指導を行います。

